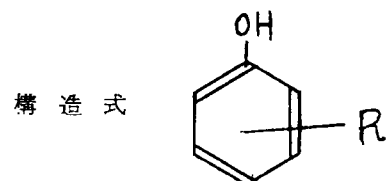


# ノニルフエノールの分解度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年3月3日～昭和50年5月10日
2. 試料名 ノニルフエノール (試料名 K-69)  
分子式  $C_{15}H_{24}O$



## 3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
 薬 発 第 615 号  
 49 基 局 第 392 号

微生物等による化学物質の分解度試験による

### 3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

### 3.2 酸素消費量測定

3.1 の記録による

### 3.3 生分解試験後の直接定量法

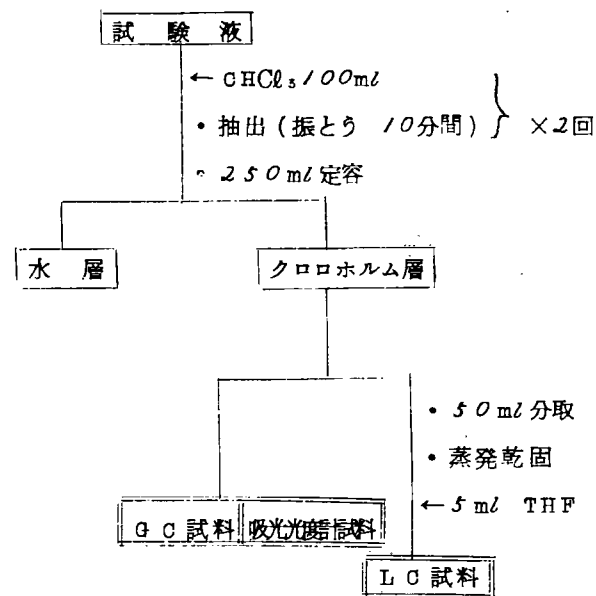
#### (a) 使用分析機器

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

紫外可視自記分光光度計

液体クロマトグラフ

## (b) 分析試料の前処理



## (c) 分析条件

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 DC 200 2%

ガラスカラム  $2\text{mm}\phi \times 0.3\text{m}$

カラム温度  $85^\circ\text{C} \sim 150^\circ\text{C}$  1.5分保持

昇温速度  $2^\circ\text{C}/\text{min}$

紫外可視自記分光光度計 (吸光光度計)

波 長  $230\text{nm} \sim 350\text{nm}$

スリット幅  $4\text{nm}$

使用セル 石英セル  $10\text{mm} \times 10\text{mm}$

(以下余白次頁に続く)

#### 液体クロマトグラフ

カラム ステンレス 7.5 mm $\phi$  × 6 / cm

固定相 G-1000

溶離液 THF

流速 1.3 ml/min

検出器 UV (277 nm)

#### 4. 試験結果

|            | 分解度 (%) | 付 図 | 付 表 |
|------------|---------|-----|-----|
| 酸素消費量による結果 | 0       | 1   | —   |
| GC による結果   | 8.9     | 2   | 1   |
| 吸光光度計による結果 | 5.3     | 3   | 2   |
| LC による結果   | 2.5     | 4   | 3   |

#### 5. その他

試験液の水系において、GC, UV, LC 分析で残留率が  
60~70%しかないのは揮散性によるものと推定される。

以 上